令和５年度 長野県立歴史館協議会 議事録

１　日　時

令和５年８月３日（木）　14 時 00 分から 16 時 00 分まで

２　場　所

長野県立歴史館　会議室

３　出席者

(1) 委員（五十音順）

植田平委員　浮貝貴子委員　倉石あつ子委員　久留島浩委員（Web）
後藤芳孝委員　酒井賢一委員　佐藤真耶委員　三井有奈委員
矢島宏雄委員　山﨑俊子委員

(2) 長野県立歴史館

笹本特別館長　塩沢参事兼館長兼管理部長　新津副館長兼学芸部長
小野総合情報課長　櫻井考古資料課長　村石文献史料課長
栩秋課長補佐（管理部）　水澤専門主事（考古資料課）　ほか

(3) 長野県教育委員会事務局 文化財･生涯学習課

三木文化財係長（Web）　柳沢主任（文化財係、Web）

４　議題等

(1) 会長及び副会長選任
(2) 令和４年度事業に係る実施状況及び自己評価について
(3) 令和５年度事業に係る実施計画及び目標設定について
(4) 意見交換（全般）

５　内　容

（塩沢館長）

ただいまから令和５年度長野県立歴史館協議会を開催いたします。私は、館長の塩沢と申します。どうぞよろしくお願いします。

はじめに、出席者数の確認を行います。本日は、Web によりご参加されます久留島委員がいらっしゃいます。よろしくお願いします。

（久留島委員）

よろしくお願いします。

（塩沢館長）

久留島委員を含めまして 10 名の委員全員のご参加をいただいております。したがいまして、長野県立歴史館管理規則第４条第３項の規定により会議が成立していることをご報告申し上げます。

それでは、開会に当たりまして、特別館長からごあいさつを申し上げます。

（笹本特別館長）
皆様、本日はお忙しい中、しかも、この暑さの中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。実は、来週の 11 日、山の日が、皆様の御協力によってクラウドファンディングの結果として歴史館で購入することができた武田信玄書状の公開日です。ご参加いただいた人たちにまずは 11 日に講演会をして、お披露目をする予定です。ここで、クラウドファンディングで購入しなければいけなかったように、今、当館は予算が大変足りなくなっております。皆様に見ていただきました古墳展も、職員の努力といかに節約するかということで、何とか成り立っている状況です。その意味では、今、歴史館そのものが大きな転機に差しかかっております。いつものように皆様からいろいろご意見をいただいて、私たちの館が少しでも前に行けるように御指導いただけたらと思います。本日はよろしくお願いいたします。

（塩沢館長）
今回は、委員改選後、初の会議ということでございまして、任期は、令和５年４月１日から令和７年３月 31 日までの２年間です。前回の任期は令和５年２月６日まででしたが、今回は事業年度と委員の皆様の任期、すなわち活動期間を一致させていただき、４月１日からということで年度の区切りとともにお願いすることといたしました。
それでは、委員の皆様に自己紹介をお願いしたいと思います。出席者名簿の記載順に、植田委員からお願いいたします。
［委員自己紹介］
次に、職員が自己紹介をいたします。
［職員自己紹介］
それでは、これより議事に入ります。
はじめに、会長・副会長の選任をお願いします。
本協議会は、歴史館協議会運営細則第２条第１項及び第２項の規定により、会長及び副会長を置き、また、委員が互選することとなっております。お伺いします。この取扱いについては、いかがいたしましょうか。

（酒井委員）
事務局に案がございましたら、お願いしたいのですが。

（塩沢館長）
ただいま、事務局の案をというご発言をいただきました。それでは、事務局からお願いします。

（新津副館長）
事務局案として、会長を倉石委員、副会長を矢島委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（塩沢館長）
ただいまの事務局案につきまして、皆様いかがでしょうか。～委員から拍手～
ご賛同がございましたので、会長を倉石委員に、副会長を矢島委員にお願いしたいと存じます。
運営細則第３条第１項の規定により、会議の議長は会長が務めることとなっております。

早速でございますが、倉石会長は、会長席のほうへお移りください。最初にごあいさつをいただきまして、以降の議事の進行をお願いします。よろしくお願いします。

（倉石会長）

それでは、不束なものでございますが、会長を務めさせていただきます。何かありましたときには、矢島さん、どうぞよろしくお願いいたします。

では、議事に入らせていただきたいと思います。限られた時間の中でございます。４時には終わりたいと思いますので、是非、その旨ご協力をお願いいたします。

会議の内容につきましては、県立歴史館のホームページで公開することとなりますので、ご承知おきいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、「(2) 令和４年度事業に係る実施状況及び自己評価について」と「(3) 令和５年度事業に係る実施計画及び目標設定について」をあわせて議題といたします。

今回は、本題の A3 横長の資料に入ります前に、事務局から「館の概要と館運営の課題」というタイトルで説明がございますので、先にそちらの方をお聞きいただいて、それからＡ３の方の資料の説明に入りたいと思います。では、よろしくお願いします。

（塩沢館長）

それでは、「県立歴史館の概要と館運営の課題」をご覧ください。まず、これで最近の主な活動と課題の概要をお聞きいただいた後に、本題の資料のご説明に移りたいと思います。

［資料「県立歴史館の概要と館運営の課題」について説明］

（主な内容）

Ⅰ　館の概要沿革

・館の役割と機能、組織体制、施設

・館利用者数の状況、学校見学・アウトリーチ型講座の状況

Ⅱ　館運営の課題

・しあわせ信州創造プラン（長野県総合５か年計画）の記述

・施設の長寿命化と設備の改善

・展示のリニューアル

・歴史資料の収集・保存機能の強化

（保存処理の推進、保存スペースの確保、資料散逸防止、公文書の移管・整理等）

・博物館機能・公文書館機能の強化

（専門性の維持向上、専門人材の確保、館独自の「博物館機能向上学芸員チーム」の設置）

（倉石会長）

ただいま、県立歴史館の概要と館運営の課題をお話しいただきました。新たな県史編さんに着手することも報道でも言われているのですが、そのためにここの職員の募集がどのくらいされるのかとか、さらには館自体、どこの博物館も同じですが、収蔵庫（のスペース）がなくなるとか、常設展示の展示替えの問題など、どういうふうにやるのかというようなこととか、あと、最後に説明のありました学芸員資格を有する者、この大きな館を９人でまわしていくというのもなかなかすごいなと私は思いますけど、その辺の増員の問題というようなことを、最後の意見交換のところでそれぞれの方から出していただければと思います。

まずは、Ａ３の資料の説明をお願いしたいと思います。前半「基本目標１と２」、後半で「基

本目標３から７」に分けて、事務局から説明をお願いします。

（新津副館長）
［資料「新たな歴史館の創造をめざして－長野県立歴史館中長期目標（2020～2029 年）－」について説明］
［資料「令和４年度事業に係る実施状況・自己評価及び令和５年度事業に係る実施計画及び目標設定」のうち基本目標１、２について説明］

（倉石会長）
ただいまのご説明で、基本目標３から７に移る前に、どうしても意見を出しておきたいという方、どうぞ。

（植田委員）
これは今後、評価達成のところで検討していただければということですが、２の２について信州学講座、考古学講座、古文書講座というところで参加者数が書いてあるのですが、結構当日のキャンセルが多くて、事前の申込みでは多分満席になっている傾向が多いと思うので、そういうものについては申込みでは達成しているということを書いてもよいのではないかと思いました。今度の古墳（展）の講演会も受付終了と書いてありますが、多分、当日暑さやいろいろな事情で減ってしまうと思うので、もったいないなというのが意見の背景です。

（倉石会長）
久留島委員、いかかがでしょうか。

（久留島委員）
三つほどございます。
一つ目ですが、大きな問題として、流出史料の購入予算などについては示されていましたが、館全体の運営の予算を示す必要があるのではないかと思いました。その中で流出史料の購入や科学分析の費用、設備の改善の費用など、どの程度かかっているのかということを示していただいた方がよいのではないかと思いました。なぜかと申しますと、どの博物館でもこの２、３年、電気代が全国的に非常に上がっておりまして、その問題をどうするかということを考えたときに、通常の予算ではとてもやれないという点が重要だと思うのです。そういうことも含めて年度予算の枠組みを示した上で諮っていただいた方が意見も言いやすいと思うのです。
二つ目ですが、自己評価に関わってＡとＢの判定の仕方に必ずしも整合性がないように思います。100％達成していてもＢになっているところがあります。Ａは納得できるのですが、ＢはなぜＢになっているのかよくわからない。例えば、２の２の展示解説の実施は実施率100％なのにＢになっているなど。ほかにも多いんですね、目標に掲げているものができているのにＢというのは。私が推測しますに、もっとやれるのにという意味でＢにしているのではないか、また予算がなくてということも含めてＢにしているのかもしれないと思うので、ＡやＢにこだわるつもりはないのですが、ＡとＢの関係がよくわからなくなってしまうので、このことをどう処理するのか考えてほしいと思います。
もう一つは、達成できていないものがいくつかあるのではないかと言う点です。なぜ達成できないのかということの原因を書いていくことで、次の取組や今後の課題が明確になるの

ではないかと思います。この辺りのことを書く欄を設けて、どう改善していくのかということを明示した方がよいのではないでしょうか。令和５年度の目標値や改善点のところにいくつか書いてありますが、具体的に書いてあるところとよくわからないところがあるので、そこを丁寧に書きこんでいくことで、来年度の適正な目標値が出てくるのではないかと思います。

（倉石会長）

ありがとうございました。今、久留島委員の方から出されました全体予算の中での館の運営状況とか様々な目標の実行状況とかいうものをもう少しはっきりさせていただくとわたしたちもわかりやすいと思いますし、それから、Ａの付け方も確かに、これＢじゃなくてＡでいいのではないかというところもありまして、例えば、取組２の３のところ、学校教育を支援しますというところで、博物館実習を８人、希望者受入れ率 100％で 100％受け入れているのだけれどＢになっていて、これは実習内容としてやってあげたいことができなかったということでＢなのか、少しわかりづらいという感じがしました。この点の改善が、なぜ達成できないのか、どういうふうに改善したら達成できるのかということにつながっていくのではないかと思いますが、副館長どうでしょうか。

（新津副館長）

予算の方はまた検討させていただくということで、達成できていないということについてですが、Ａ、Ｂ、Ｃの区分というのは、目標を上回る成果を上げたものがＡ、満足度であるとか目標が 90％のところが 100％であればＡとなるのですが、目標が 100％で実際 100％ですと、目標どおりということでＢとなります。ですので、同じ 100％でも目標達成値が低いとそれを上回った 100％ということでＡになりますが、もともと目標値が 100％ですと達成値が 100％でも同じなのでＢということになります。見づらいという点は確かにあると思いますし、改善点、特にこれから何をしていけばよいのかについては、今回その欄も付けたのですが、さらにわかりやすく書けるように工夫していきたいと思います。

（倉石会長）

ありがとうございます。

久留島委員、今のお答えでよろしいでしょうか。

（久留島委員）

ただ、数字目標がないところもあるんですね。例えば、基本目標２の７などは、目標値ではなく発信するという書き方をしているんですね。100％、100％以上にこだわるのであれば、中身の問題を重視するような評価の仕方にしていかなくてはいけないのかなと思います。大学など国の機関でも数値目標を出していますが、実は自己目標というのは、本当は数値目標だけではなくて中身をどうするか、中身がどれくらい達成できたかということを見直すわけです。例えば、こちらの研究会も実際の回数は達成できているわけですが、私は、中身が充実していれば、10 回が 10 回ちゃんとやっているので、評価は A でもよいと思っています。今後この自己評価をだれに示すのかと考えたら県や県民に対して出すわけですから、わかりやすい数値が必要なことは確かなことですし、自己評価を厳しくすることも決して悪いことではないのですが、何よりも自己評価が館の改善につながっていくことが大切です。様々なところで「評価疲れ」が起こっていて、こちらでも、どんなに頑張っても予算は増えないじゃ

ないか、整備費用にどれだけもらえるのか、県史編さんにどれだけの予算や人員が配当されるのか、実は全然見えていないのではないでしょうか。館としてどういうことが本当に必要なのかということを、こういう場では明確に書いてもらった方がよいと思います。誰のために何が必要なのかということを、あるいは県（本庁）の方がいる場では言いづらいのかもしれませんが、やはり本音で議論していく必要があると思います。

（倉石会長）
ありがとうございます。Ａ、Ｂの問題は少し精査していただいて、書き方をもう少しわかりやすくしていただきたいと思います。ほかはいかがでしょうか。もしなければ、次の基本目標３から７についてご説明をいただいた後、まとめてご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（新津副館長）
［資料「令和４年度事業に係る実施状況・自己評価及び令和５年度事業に係る実施計画及び目標設定」のうち基本目標３～７について説明］

（倉石会長）
ありがとうございました。
それでは、基本目標３から７について何か意見ございますでしょうか。

（植田委員）
評価関係で一つと活動について一つ申し述べたいと思います。取組３の１と３の３、５の１に関係してくるのですが、まず、ＫＯＡさんとグーライトさんにご協力いただいてやっていることについてはＡでよいのではないかと思います。なぜかというと、協力していただいていることで、そもそも評価値もないところで、率直にＡでよいのではないかと思います。それとボランティアの方々の活躍も大きいＢですけれども、大きいＡでよいのではないかと思います。同じく、５の１歴史館企業協賛の日もご協力いただいておいてＢというのもどうかと思うので、ここもＡではないかと思います。それと、４の１出前講座の実施というところで、来週には飯山でヤング古文書講座という講座があり、歴史館から講師を派遣してくださるということで、主催かどうかというところもあるかと思いますが、こうした派遣の実績もぜひ加えていくことがよいのではないかと思いました。

（倉石会長）
今のご意見について、何かございますか。

（新津部長）
今の飯山市への派遣ですけれども、下の「上記以外の出前講座」に入りまして、ここがかなり薄く書かれていますので、それぞれどんなことが行われたのかということが書けるようにしていきたいと思います。また、評価についてもその辺の視点をもって進めていくべきだと感じました。

（倉石会長）
そのほかにいかがですか。後藤委員、いかがでしょう。

（後藤委員）
本質的なことを言っていいのかわかりませんが、この会は何の会なのかと思っていました。基本的には久留島さんのおっしゃっていたことに共感するのですけれども、Ａ、Ｂの判定をここでやり直す会なのか、それともそうではなくて、ここが課題になっているからこのことについてみんなの意見を聞きたいという会にするのか、そこのところがよくわからないところがあるので、少し発言しにくいところがありました。全体評価を見てもＡとＢでほとんど達成できているということであれば、それはそれでいいのではないかという形になってしまうので、この会の趣旨をどうするのかということで、今、私の頭の中は混乱しているのですけれども。

（塩沢館長）
まず、ここまでに何人かの委員から評価についてご意見をいただいきましたが、自己評価という意味では、やはり分かりやすさや客観性も求められますし、基準も明確でなくてはいけませんので、先ほど副館長が申し上げたとおり、改めて検討してまいりたいと思います。
それから、この会の趣旨ということですけれども、私どもといたしましては、自己評価に対するご意見をいただくこともありがたいことですけれども、大きく捉えますと、こうした館の資料も参考にしていただいて、より良い館運営にという観点から館の取組についていろいろなご意見あるいはご指摘等をお聴かせいただき、それらを参考にしながら館運営を進めていきたいと考えておりまして、こうした趣旨でご理解いただきたいと思います。本当にどんなことでも構いません。館の活動をご覧になって、是非、この場でご発言をいただけると大変ありがたいと思います。

（後藤委員）
そうしますと、やはり最初の塩沢さんの方から話のあった館の課題とこれからどうしていくのかということについて皆さんの意見を聞くという形が一番良いと思います。

（倉石会長）
この後、基本目標の１から７についてのご意見があまりなければ、全体を通して、歴史館の概要と館の運営について、館長がお話しされたようないろいろな問題が見えておりますので、そのことについてご意見をいただければと思ったのですが、そちらに移ってよろしいですか。
では、席順にご意見を言っていただければと思いますが、酒井委員いかがですか。

（酒井委員）
私、隣の古墳館に４月から来て、本当に連携がされていることを実感しながらやってきています。今回の古墳展で、まさに歴史館さんが県全体の古墳ムーブメントを作る、古墳フィーバーを作っていくハブとなって動いていただいていると身をもって感じています。特にうちは隣にあるわけで、古墳時代の前期、中期を歴史館さん中心に展示されているので、古墳館は後半のところを展示していくという形で、しかも、特別展（企画展）について直前に連携し、２館券で入れるようにするというようなことがあって、それがこれからまさに歴史館の方向ではないかと思いました。県内たくさんのものがあって、博物館もあるので、やはりハブとして、全体を繋げながら前に進めていってもらいたいです。もっと進めれば、スタンプ

ラリーとか、そういったところで、実際にここを巡っていったら、それぞれの館でスタンプがもらえるなど、何かそういった、さらにハブ機能を強化して中核としての拠点になっていっていただけると、千曲市の一つの館としてはありがたいなということを思いました。

それに伴ってですけど、人もこれからたくさん呼ぶとなると、古墳館も歴史館もやはりどうしても駐車場の問題があります。これから高速道路のスマートＩＣ（インターチェンジ）ができていくに当たって、これから 10 年先を見据えながら、どんなふうにこのチームで、長野県の歴史の発信の地として位置づけていくのか考えていかなければいけない。この間、お客さんが、「高速道路を走っていて、いつも気になっていたんです。あの山の上にあるあれはなんでしょうか。」、「やっと来られました。来てみたらすごくてびっくりです。」というような話をしました。古墳館も歴史館も非常に広報が弱いなと感じます。高速道路を走っている方々は全国区ですから、スマートＩＣができて、これがどうなっていくのかなっていうところを描いていかないといけないところにきていると思います。その中で、将来を展望する場、楽しみ、交流する場としての役を果たすっていう部分をどのように解釈するか考えていきたい。先日、古墳館に不登校を担当している先生がみえて、館で３時間くらい過ごしていかれました。古墳館の２階には窓が一つもない密室空間で、その中に入ったときに「非常に落ち着く」というお声をいただきました。その前にも、千葉市教育委員会の学校教育課の方から不登校生徒の居場所として機能できますかっていうような問合せもあり、将来を展望する場というのは、実はこういった場にあるのではないかと思います。やはり、文化財などがその子にとって、県民にとってですね、何かつまずいたときにふと立ち寄って将来を展望する非常な大事な場になるのではないか思うと、もっと広めていく必要があると感じました。それとともに、先日、ヨガの先生が来て、「こんな素晴らしい場があるなんて知らなかった。是非イベントをやってみたい。」という話もありました。この楽しみ、憩いの交流する場というところを、積極的にエンターテイメントを含めて全体を考え直していく必要があるのではないか、と思うところであります。そのためにも、駐車場を確保するっていうことが喫緊の課題だと思います。そんなことを思いながらこの３か月過ごしておりました。よろしくお願いします。

（倉石会長）

今、森将軍塚古墳館の館長さんからご意見いただきましたけれども、多分できることとできないことがあるのではないかと思いながらお聞きしておりました。駐車場の問題も、場所を確保することから始まり、大変と思います。それから様々なイベント、人との交流でも、なかなかそれを企画して実施していく時に、どうしても人が必要になってきますので、その辺のところはいかがでしょうか。館の方としてはどんな感じでいらっしゃいますか。また、今ではなくてもご検討いただければ良いですよね。

（酒井委員）

その面については、もう館が積極的に全部担っていく訳ではなくて民間委託していくという事だと思います。森将軍塚祭りが 11 月３日にありますが、実施団体の変更もあり、非常に運営に苦しんでいるのですが、ステージも外注、出店者についても外注していくという形で外部委託しながら、民間にお金が動いて落ちるようにしてくような仕組みにして、かつ、歴史館さんにしろ、古墳館にしろ、職員の負担は逆に軽減していくっていう形で、活性化していくっていう方向、やはり民間をしっかり入れていくことだと思います。

（塩沢館長）
基本的で大事な問題だと思います。今回の古墳展を新たな契機として、両館の連携強化を今後も意識してやっていかなければと思います。先ほどお話しのあった、企画展の連携に当たって実施した入館料の２館券の工夫にしても、今回は、どちらかといえば柔軟に対応できたと思いますけれども、そういったことを常に考えながらやっていく必要があります。
それから、広報というお話がありましたが、これも非常に重要な課題だと思います。高速道路を通る方もさることながら、違う側面で言いますと、私どものこの施設の存在が、例えば、県の南の地域で知られているかと言えば、決してそうは言えないという認識をしております。学校などに出かけて授業を行うお出かけ歴史館という取組がありますが、ある村に訪問してみると、それまでこの館のことを知らなかった、と言われたそうです。これは、はっきり言って問題であろうと思っています。解決するのにどうやって広報の力を高めていくかというのは、なかなか難しいところがありますが、そういった課題をテーブルに上げて具体的に考えていかなければいけないと思っていたところですので、酒井委員のご意見に留意して考えていきたいと思っております。館独自の発信もありますし、地域としての発信もあると思います。ありがとうございます。

（倉石会長）
特に県の南部の方の様々な博物館との連携というのも、これから多分必要になってくると思います。その辺も含めてお考えいただければと思います。
後藤委員いかがでしょうか。

（後藤委員）
いくつか話題にしたいことはあるのですが、あと 25 分しかないので、とりあえず一つ。来年 30 周年ですよね。先ほど笹本特別館長の方から、お金が足りないという話があったのですが、10 年とか 30 年とか 50 年とか 90 年、100 年といった節目は、しっかりお金が出るときだと思います。来年度に向けて、文生課（文化財・生涯学習課）の方に遠慮していてはいけなくて、これだけのことをこうやりたいということを館の方から発信していかなくてはいけないと思うのですが、基本目標の７のところに少し書いてあるだけで、来年どうしたいのか館の方から声が聞こえてきていないので、この辺の所をどのようにお考えか聞いておきたいなと感じました。

（倉石会長）
館長、お願いします。

（塩沢館長）
いよいよ 30 年。やはり、我々の事業、取組の中で、一番には企画展があると思います。それに向けたウェイトを高めて、既に何回も打合せをしておりますけれども、より良いものにしていくという面では経費も伴ってきます。その辺りは、これまで以上に自助努力を行うことも大事ですし、また、後藤委員がおっしゃった節目というご指摘のように、率直に本庁に考え方を伝えていきたいと思っております。

（倉石会長）
なかなか思いどおりにはならないかとは思うのですが、主張は主張として行っていただけ

ればありがたいかと思います。

（後藤委員）
　塩沢館長の出していただいた資料の５ページのリニューアルの関係ですけれども、30 周年の節目辺りに声を出していくことが大切なことだと思うので、どんな形で出せるかは問題があるかも知れませんけれども、その辺のところも声を大きくしていった方がよいのではと思いました。

（倉石会長）
　ありがとうございました。
　では、浮貝さんお願いします。

（浮貝委員）
　リニューアルという話があり、常設展について検討されているということだったんですけれども、私が小学校高学年のときにここに見学に来て、久しぶりに数年前に常設展にお邪魔したのですが、そのときと細かいところは変えてもらっているということだったのですが、あまり印象が変わらなかったというのがありました。難しい面もあると思うのですが、私たちが学生の頃は昭和時代の昔の遊びの体験ができるコーナーがあって、そこが印象に残っています。子どもたちは常にそういう体験ができるということが大切だと思うので、そういうところも今後、コロナのことで大変だったと思うのですが、徐々に復活していくということなので、実現するといいなと思います。
　それと、子どもと関わり子どもを育てる身として、親子で楽しむイベントも開催していただいているので、体験型のプラバンマスコット作りやワークショップというところもすごく重要な機会だと思いますけれども、広報のお話があったのですが、宣伝はどうされているのか、ホームページだけなのか知らないまま終わってしまう場合があると思うので、企画展のポスターは商店街に貼ってもらっているのですが、そのポスターや、予算の関係で難しいかもしれませんが、チラシを貼るなど宣伝があってもいいのかなと思いました。

（小野総合情報課長）
　まず、お子さんに対するイベントですが、今年も５月５日のこどもの日には体験できるイベントを開催しました。それから、８月６日も歴史館で夏休みというイベントを計画しており、11 月にもお子さんを集めたイベントを計画しております。次に、体験についてですが、昔のめんこがあったと思うのですが、小学生が来てみんな壊してしまうのです。いろいろなことを悩んで、結局補充がきかないということもあって、今一旦、別の形にしているというのが現状です。
　それから広報ですが、ポスター、チラシについては、年に４回、近くの所は職員が手配りで商店街さんの方に配布しております。県下の公民館、博物館、小中高の学校、県外の博物館には郵送しております。あとはホームページを使う、企画展のオープニングセレモニーを毎回やるようにし、報道機関に来てもらって、テレビ、新聞で報道していただく、ということに取り組んでいます。それから、県下のケーブルテレビと連携しておりますので、県立歴史館講座を撮影して、それをケーブルテレビで放送するということも広報の一環で行っております。主だったものはこのようにやっておりますので、よろしくお願いします。

（倉石会長）
ありがとうございます。体験講座についてですが、全県で連携して、この日はどの博物館に行っても体験ができるという日を設けてもいいのではないかと思うのですが、是非検討していただければと思います。今、安曇野市の豊科郷土博物館では毎日のように子どもたちが勾玉づくりと藍のたたき染めと、中では羽根つきをやったりめんこをやったりビー玉をやったり、半日くらい親子で遊んで行っていますので、そういう、全県この日は体験日ということをご検討いただければと思います。

（小野総合情報課長）
県立歴史館に、長野県の博物館や美術館をまとめている長野県博物館協議会の事務局があります。こうした組織の中で何か一緒にできないかという相談は可能だと思うので、検討したいと思います。

（倉石会長）
是非、お願いします。
時間がなくなってきましたけれど、山崎委員。

（山崎委員）
これまで出てきた意見と重なるのですが、やはり常設展に関しては、6年の担任になるたびにこちらにお邪魔して学ばせていただいていたのですが、当初の形からあまり変わっていないなと思います。子どもたちはその都度変わるので、新鮮な気持ちで体験はできるのですが、29年経っているということで様々な面で古くなってきている部分もあるということで、リニューアルをこれからやっていただくのはとてもありがたいと思うのですが、この館の職員だけではなく、広く学校であったり子どもであったり、地域であったり来館される方であったり、広く意見を募っていただいて、リニューアルに活かせるような取組をしていただければと思います。
あと、予算面で言いますと、県立歴史館でさえも大変なんだということで、正直驚いております。学校現場でもお金の面では苦慮しているところでございますが、県の中でも重要な存在である県立歴史館では、もっと準備できるお金があるといいのにと思います。

（倉石会長）
矢島委員いかがでしょう。

（矢島委員）
はい。今日最初に笹本特別館長の方から、武田（晴信書状）の関係の予算が厳しくなっての対応や、企画展がこう何か少し大変で、職員の人達がみんな努力をしてここまでやったというお話がありました。何か何も言えなくなったのですけれど、一つ、古墳展を見せていただいて、古墳から出たものをたくさん並べてあるけれど、古墳は見える大きなものだから、この善光寺平のものと飯田市周辺のもの、山の上にあるとか段丘の上にあるとかと、立地が違うから、古墳全体の写真を、デジカメなどでバチっと撮ってプリントアウトして、バックの（壁の）ところにもっとたくさんあれば、「ああ、こういうところからこれは出たんだ。」というような見方ができたのかなと、ちょっと思いました。職員の方が、大変な努力をされたということがよくわかりました。それで、（「県立歴史館の概要と館運営の課題」の）4ペー

ジに、しあわせ信州（創造プラン 3.0）の県の５か年計画で「県立歴史館の機能充実により」と書いてありますが、機能充実とはいったい何のことを言うわけですか？

（塩沢館長）
率直に申し上げて、いろいろなことを含めて書いています。委員の皆様から盛んにご指摘いただいたリニューアルや、博物館機能・公文書館機能の維持向上、地域との連携など、これまでにも取り組んできたこと、この先取り組むべきことなど、様々な取組によってより良い館にしていくということが機能充実という表現に集約されています。ただ、私たちの想いとすれば、中でも重要視しているのはリニューアルでございまして、施設的・設備的な部分というのは、予算的な規模も大きくなりますので、そうした部分については、県政の課題の中でしっかり検討され、実現されていく話になると思います。

（矢島委員）
それでも、せっかく県の総合５か年計画の中に「県立歴史館の」という形で項目が入っているのですから、やはりこれを全面的に使って、予算要求なり、そういうリニューアルの問題をアピールして行ければと思います。
それともうひとつ、学芸員チームを作った、頑張っていくんだ、というお話があったんですけど、私が思うに、人事異動の問題っていうのがあって、長野県の場合、博物館の学芸員としてずっと長く、よその県のように勤務する職員がいないのですよね。みんな県庁と埋文センターとここと、こう、ぐるぐる５、６年で回っているから、結局スキルを上げてきても、今度は全然違うところへ、県庁へ行ってやるとか。何か人事異動の問題というのも是非考えて、うまく学芸員チームが機能するようにしていただければと思います。以上です。

（倉石会長）
ありがとうございます。
はい、館長。

（塩沢館長）
まさに貴重なご指摘をいただきました。人材の話ですが、具体的に一点申し上げますと、本当はこちらで申し上げるよりも、Web 会議の画面の向こうの県庁から申し上げた方がいいかとは思うんですけれども、ただいま、文化財専門員という職の職員を募集しております。これについては、先日、新聞で紹介されていましたが、そこでは、一義的には、埋蔵文化財の発掘のための職員を募集しているというような言い方になっていましたけれども、私どもからしますと、まさにこの博物館である県立歴史館の学芸員の業務に就いていただくためのものと理解しております。そこのところは、今後も引き続き、本庁の文化財・生涯学習課と十分お話をさせていただかなければいけない部分だと思いますけれども、委員の皆様におかれましては、その県の募集の動きというものを、そのような県立博物館の人材確保の取組の一環としてご理解いただければと思います。皆様には、もし、良い人材がおられましたらご紹介いただいて、応募につなげていただきたいという気持ちでございます。引き続き、人材確保という重要な課題に取り組んでまいりたいと考えております。

（倉石会長）
ありがとうございます。どの分野もですね、若手の研究者が、段々不足してきていて、こ

れからの学問分野の、何て言うんでしょう、継続性みたいなものが、非常に危ぶまれている時期だと思うのですけれども、歴史館の学芸員という職業もそういう危機に瀕しているのではないかと思いますので、是非その辺のところは、県の本庁の方々、よろしくお願いします。

（塩沢館長）
　少し発言をよろしいでしょうか。今年度館内に設置した（博物館機能向上）学芸員チームの初代のリーダーから申し上げます。抱負等を。

（倉石会長）
　是非、一言。

（考古資料課　水澤専門主事（学芸員チームリーダー））
　今、いろんな課題に、諸課題に関しまして、９人のメンバーでいろいろ取り組んでおりますが、いろんなスキル、私たちの持つスキル、それから今、もう一度学び直しているスキル、こういうものを次の世代に伝えていって、より博物館を良くしていきたいと思っておりますので、また、そういう面で人材の確保を進めていただければと思います。よろしくお願いします。

（倉石会長）
　是非、よろしくお願いします。
　三井委員、お願いします。

（三井委員）
　委員の皆さんのおっしゃることはもっともだと思って聞いておりました。いろいろホームページなどを見させていただいて、ちょっと思ったことを言わせていただきます。子どもたちに早く興味を持ってもらいたいという意識でホームページをのぞかせていただいたところ、イベントなどは出ているのですが、キッズアイコンのようなものがあったと思うのですが、カレンダーに使われていなくて、例えば、今度イベントが行われる８月６日にキッズアイコンがあるだけでした。「あ、子どものためのイベントがこの日にあるんだ。」というように一目でわかると感じたので、そういうアイコンを使っていただくと、今みんなネットでどこか行くところないかなと調べる感じだと思いますので、アイコンの利用をやっていただければと思います。

（小野総合情報課長）
　ホームページについても、改善に向けて力を入れていきます。親子で見てすぐにイベントがあるということがわかるキッズアイコンについても検討したいと思います。

（三井委員）
　先ほどめんこを使わせていたら壊されたというのを聞いて、めんこを作らせてもらって、それを使って遊ぶイベントがあってもいいのではないかと思いました。触りたいものを触らせてあげられる企画があると、子どもたちもすぐ手に取って関心を持ってもらえると思います。視覚でもだいぶ訴えかけてもらっていて、ナウマンゾウを見て「わー」となっている姿も見せてもらっています。触れるものが増えると、なお興味が沸いてくるのかなと思いまし

た。ご検討よろしくお願いします。

（小野総合情報課長）
検討したいと思います。ありがとうございました。

（倉石会長）
遅くなりました。佐藤委員。

（佐藤委員）
例えば、アンケートを取っているということだったのですが、どんな人がこの館を利用していて、何でイベントを知って、ということが書かれているのであれば、それを今回の資料に載せていただくと、館を利用する人は決まっていると思うので、そこからどのように利用していない人を呼び込むかというターゲットというかフォローしていく先がアンケートで分かると思うのです。なので、アンケートの内容を資料に載せていただくと、もっと深い議論ができるのではないかと思います。

（倉石会長）
久留島委員は、何か特に付け加えることがございますでしょうか。

（久留島委員）
一番重要なのは、恐らく「しあわせ信州創造プラン 3.0」と館との関わりだと思っています。昨日全部読んだのですけども、その中で確かにポータルサイトとか「信州ナレッジスクエア」とか、よくできているところがあるのですけれども、県立歴史館の機能充実、どなたかが指摘されましたけれども、充実の問題って本当にちゃんと考えているかっていうのを、ちょっとやっぱり考える必要がある。
その意味で、まず公文書館機能との関係って本当に整理されているのだろうか、と思います。あえて言うと、アーキビストを養成しないまま、採用しないまま、博物館が新たな仕事として受入れるということになっていないかということです。整理とか公開を会計年度の職員を増やすことによって賄うという形になっているように思われます。博物館にとってこの公文書館機能はどのような意味をもつのかということです。実は前から申し上げているように、博物館機能と公文書館機能というのは本来は違うものであるっていうところが分からなくなってしまうんじゃないかという危惧をしております。
次に、県史との関わり方っていうのもどうするのかな、ということです。というのは、これで言うと、「ともに」という並列になっているんだけれども、じゃあどこが何をするのか、それに対して博物館が何をするのかっていうのがまったく見えていないんじゃないかなというのが大変気になりました。
博物館機能向上学芸員チームは、本当にするべき仕事が多いんじゃないかなと思うのですが、これを立ち上げて今後のことを一緒に考えていくということ自体は、私は、すごく素晴らしいことだと思っています。定期的な人事異動という問題もあるかもしれませんけども、次代を担う学芸員の方たちが、やっぱり今のような（しあわせ）信州創造プランが出たときに、じゃあこの博物館はどうあるべきなのか、ということを考える場にしていただくとよいのではないかなと思いました。
もう一つは、予算の問題です。すでにおっしゃっておられるように、30 周年のときじゃな

いと施設や設備の本格的な整備・改善はできないのではないかとわたしも思います。30 年経つとどこの博物館ももう施設・設備はほぼ駄目になるはずなんです。次の 50 年なんか待っていられないわけで、この 30 周年のときに、どうしてもこれは必要であるという点についての改善だけはしていただけるように、是非この協議会を通じて、働きかけていただかないとしょうがないだろうというふうに思いました。

もう一つ。どこの博物館でもデジタル化がやっぱり進んでいるということです。この点も大変気になっており、このデジタル化を計画的に進めるということは予算の中にきちんと入れていかないとだめなのではないでしょうか。このしあわせ信州創造プランでは確かに一方ではデジタル化を推進しようとしておられると思うのですけれども、その中で博物館が持っている資料のデジタル化をどのように進めるのかという問題、これは結構重要な問題だというふうに思います。考古以外のものも含めて今後どうするか。

それから最後に、私は他県の博物館との協議、交流、共催というのは非常に重要だと思っていて、山梨とかですね群馬とかと一緒にされようとしていて、それを具体的にどう進めるかはですね、先ほどの学芸員チームの中でもう１回話し合っていただければいいなと思っています。共催をする、巡回をする、そういうことによって、隣県の博物館同士のですね、予算の少ない中でさらに何ができるのかっていうことも含めて一緒に検討できるんじゃないかなっていうふうに思いました。長くなってごめんなさい。

（倉石会長）

ありがとうございました。今のご指摘いただきました問題は非常に重要な問題だと思いますので、これからずっと時間をかけて館の中でも考えていっていただければと思います。

（後藤委員）

一つ言わせていただいていいですか。

（倉石会長）

はい、後藤委員どうぞ。

（後藤委員）

今、久留島さんが言われた公文書の受入れの関係ですけど、塩沢さんの作られた資料の７ページのところに特定歴史公文書が入ってくるって話が書いてありますが、それから、県知事が文献史料課の公文書館機能をもう少し考えるという発言（※）をされていますので、そこのところはやっぱり踏ん張りどころだというふうに思いますから、是非、館内でもしっかり検討していただいて、進めていただければと思いますが。

（※）県議会令和５年６月定例会一般質問における、県立歴史館の公文書館法の公文書館としての位置づけについて検討していきたい旨の答弁

（塩沢館長）

ありがとうございます。一点お願いします。

（倉石会長）

はい、どうぞ。

（塩沢館長）
　ただ今の後藤委員、それから先ほどの久留島委員からの、そもそも博物館機能と公文書館機能というのを混ぜこぜにするものではないというご指摘は、そのとおりだと思います。ですから、一つ私どもが留意すべきことは、まさにご指摘のように、公文書館機能をつけるからといって博物館機能が疎かになってはいけない、という点です。この当たり前のことをしっかりわきまえて検討に参画してまいりたいと思っておりますので、ご理解をお願いします。

（倉石会長）
　その辺、よろしくお願いいたします。

（倉石会長）
　では、これでご意見を伺うのはストップさせていただきます。
　文化財・生涯学習課の方々、何かご意見いただけますでしょうか。三木さんいかがでしょうか。

（文化財・生涯学習課　三木文化財係長）
　三木でございます。今日いただいたお話、いろいろな課題をご指摘していただきましてありがとうございます。こういった、歴史館について真剣に考えていただいている外の方々のご意見というのは、予算など県内部の関係部局と折衝していく中で貴重な材料、戦力となりますので、今後ともご指導いただきたいと思います。全体的なことで言えばこういう形になります。ありがとうございます。

（倉石会長）
　柳沢さん、特に県史の関係で何かありますか。

（文化財・生涯学習課文化財係　柳沢主任）
　来週に有識者懇談会（新たな長野県史編さんに関する有識者懇談会）を開催しまして、これから本格的に編纂のことですとか、いろいろな方のご意見を聞きながら検討していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

（倉石会長）
　特別館長からコメントをいただければと思います。

（笹本特別館長）
　委員の皆さん、ありがとうございました。我々にとっての課題はもう明らかです。その点についてはずっと言い続けてきました。今日皆さんがおっしゃっていただいたことが、私たちの力です。先ほど（文化財）係長のほうから皆さんのご意見を尊重してくれるという趣旨の発言がありましたけれども、形だけではどうにも前には行けない。我々としては、少しでも前に行くために、皆さんの発言が武器になってきます。
　先ほど、30 周年がと言われていましたけれども、実は今の展示、金額は、他所から見ると一桁違います。来年度 30 周年記念の一つ一つの展示も、出てきている金額は今の段階では一千万円以下です。他所で展示をする場合、記念の場合は数千万円かけています。にもかか

わらず、私たちはそういう状況ではないことも事実です。一方で、これだけ真剣に協議会をやっていただいている委員の皆様に対して、私たちもきちんと応えて前進していくつもりでおります。先ほどの中の話で言いますと、初めて５か年計画の中に歴史館の名前が載りました。今まではいくら言ってもああいうものの中に載っていない以上、協議の対象にもならなかった。やっとそこまで行くことはできました。そうは言ってもこれからまだまだ大変です。そのときに私たちが頼りにすべきなのは、委員の皆様だと思っています。協議の中で出てきた意見をできるだけ私たちもくみ取りながら前に進むと同時に、皆様を私たちの強力な仲間として、それから指導者として、楯にもしていきたいと思っておりますので、引き続きご指導よろしくお願いします。本日はいろいろありがとうございました。

（倉石会長）
ありがとうございました。では、どうしてもここで一言言っておかなければいけないということがおありでしたら承りますが、よろしいでしょうか。では、以上で議事はすべて終了致いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

（塩沢館長）
熱心に議論いただき、大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。参考にさせていただき、今後の館運営に生かしてまいりたいと思います。
最後になりますが、特別館長からごあいさつを申し上げます。

（笹本特別館長）
ここに対しての挨拶というより県庁に向かって言いたいのです。聞いてくれたこと、ここで耳にしたことを必ず上に伝えていただきたい。どちらかというと、遠くは遠くで、いくらこちらが吠えても吠えても届かないという状況がずっと続いてきたと、私は勝手に思っています。今の我々の館は我々のためではなく、県民の未来のためにあり、県民の将来を考えるためには、核となる歴史館が必要だということで、館員全員が県民のためにという意識で動いています。そのことをご理解いただいて、是非、県庁の皆さんにもそのことを上に伝えるようにしていただきたい。そして、委員の皆さんも、できるだけ色々な所で声を上げていただきたい。
歴史館の今の状況って本当にいいの？あれは県が作っているものであって、職員が仕事をするだけのものなの？私たち県民のものになっているの？いろいろなことを、この委員会だけでなく、いろいろなところで是非、発言していっていただければと思います。ありがとうございました。

（塩沢館長）
本日は、ありがとうございました。今後とも、お客様目線での館運営に努めてまいりますので、皆様のご助言、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
これをもちまして、令和５年度長野県立歴史館協議会を終了いたします。